

# 土地利用計画図

用途地域：第一種住居地域  
 予定建築物の用途：一戸建ての住宅

開発許可  
 年月日

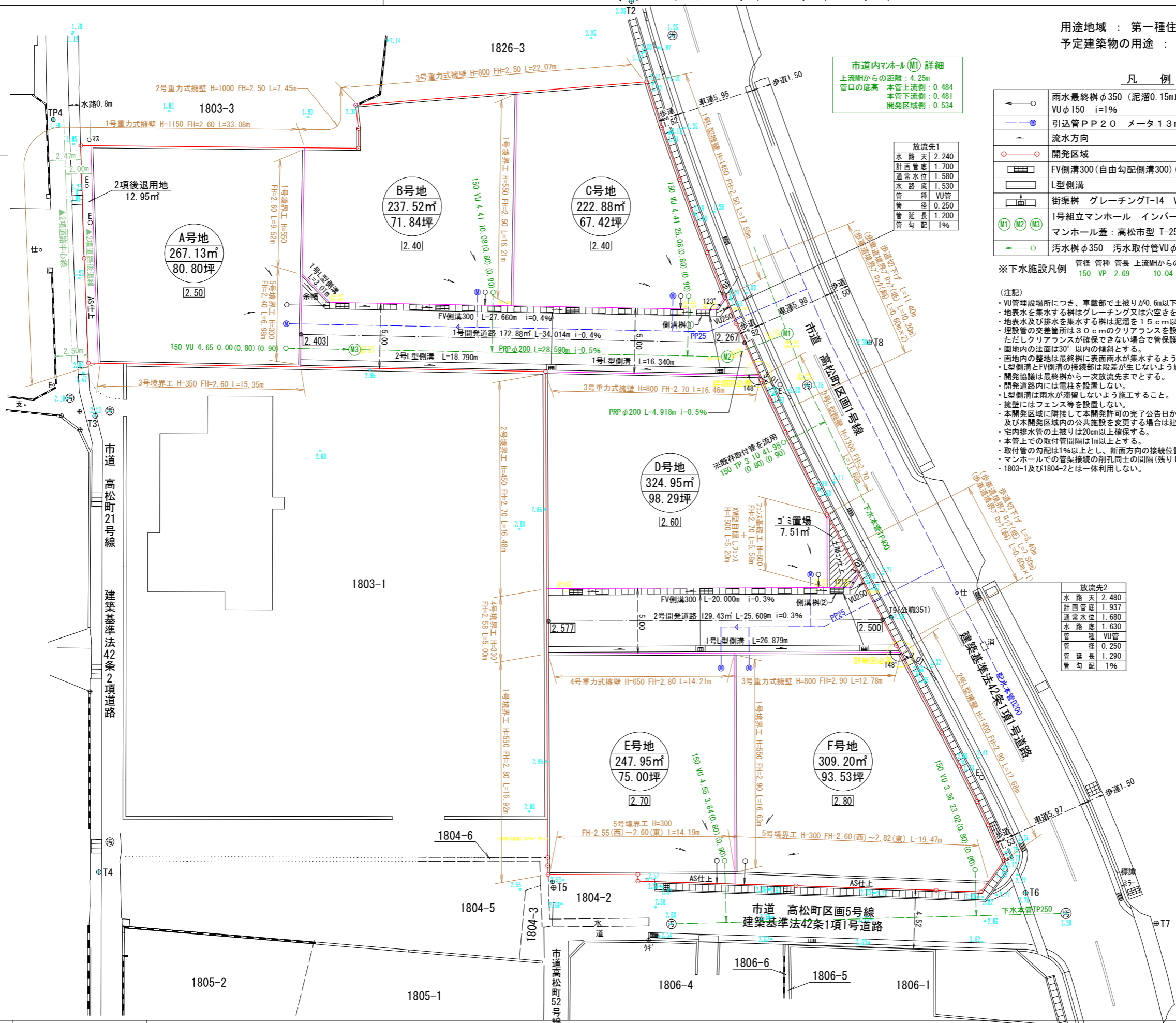
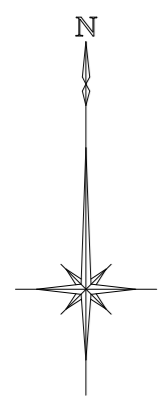
第 令  
 和  
 年  
 月  
 日

申請者

株式会社アルファード2  
 代表取締役 七條恵美

作成者  
 住所・氏名

高松市伏石町二七四番地一五  
 行政書士 松澤人史



**市道内マンホール(M1)詳細**  
 上流Mからの距離：4.25m  
 管口の底高 本管上流側：0.484  
 本管下流側：0.481  
 開発区域側：0.534

放流先1

水路天	2.240
計画管底	1.700
通常水位	1.580
水路底	1.530
管種	VU管
管径	0.250
管延長	1.200
管勾配	1%

**凡例**

	雨水最終樹φ350 (泥溜0.15m以上、深さ0.9m以下)
	VUφ150 i=1%
	引込管PP200 メータ13mm
	流水方向
	開発区域
	FV側溝300(自由勾配側溝300)(グレーチングT-25)
	L型側溝
	街路樹 グレーチングT-14 VU150コンクリート巻き
	1号組立マンホール インバート施工
	マンホール蓋：高松市型 T-25(市道内)、T-14(開発区域内)
	汚水樹φ350 汚水取付管VUφ150 i=1%

※下水施設凡例 管径 管種 管長 上流Mからの距離(土被り)(樹深さ)

150 VP	2.69	10.04	(0.80)	(0.90)
--------	------	-------	--------	--------

- (注記)
- ・VU管理場所につき、車載部で土被りが0.6m以下の部分はコンクリート保護を行うこと。
  - ・地表水を集水する樹はグレーチング又は穴空きを設置すること。
  - ・地表水及び排水を集水する樹は泥溜を15cm以上確保すること。
  - ・埋設管の交差箇所は30cmのクリアランスを設ける。ただしクリアランスが確保できない場合で管保護をした場合は最低10cmとする。
  - ・画地内の法面は30°以内の傾斜とする。
  - ・画地内の整地は最終樹に表面雨水が集水するよう仕上げる。
  - ・L型側溝とFV側溝の接続部は段差が生じないように施工する。
  - ・開発協議は最終樹から一次放流先までとする。
  - ・開発道路内には電柱を設置しない。
  - ・L型側溝は雨水が滞留しないよう施工すること。
  - ・擁壁にはフェンス等を設置しない。
  - ・本開発区域に隣接して本開発許可の完了公告日から1年以内に開発行為を行う場合、及び本開発区域内の公共施設を変更する場合は建築指導課と協議すること。
  - ・宅内排水管の土被りは20cm以上確保する。
  - ・本管上での取付管間隔は1m以上とする。
  - ・取付管の勾配は1%以上とし、断面方向の接続位置は本管の中心線より上方とする。
  - ・マンホールでの管渠接続の削孔同士の間隔(残りしろ)は内面側で10cm以上確保する。
  - ・1803-1及び1804-2とは一体利用しない。

放流先2

水路天	2.480
計画管底	1.937
通常水位	1.680
水路底	1.630
管種	VU管
管径	0.250
管延長	1.290
管勾配	1%